

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科として数多くの社会との接点を取りながら、豊かな心を持ち、自らの生き方を考えて各自の「夢」の実現に向けてチャレンジする主体的な生徒を育てるとともに、希望する多様な進路を実現できる確かな学力が身につく「進学重視の総合学科」をめざす。 1 多様な進路を支える教育活動を展開する 2 ともに学び、ともに育つ心を培う教育活動を展開する 3 自ら将来の夢を描き、それを実現できる生徒を育成する。
--

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 (1) 授業の充実（「授業内容に興味・関心をもつことができる授業」「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じる授業」を行う） ア 授業研究協議や生徒の「授業アンケート」を効果的に活用するとともに、教員間における授業見学を行い授業改善に取り組む。 ※生徒の「総合学科アンケート」における『授業の満足度』等の肯定的な評価の割合（平成 24 年度 85％）を平成 27 年度には 90％にする。 (2) 自らの意見をまとめ、発表して、相手に自分の意思を伝える能力の向上 ※生徒の「総合学科アンケート」における『コミュニケーション能力が身についた』（平成 24 年度 76％）を平成 27 年度には 90％にする。 (3) 自ら学ぶ意欲・姿勢の定着 ア 自主的な学習態度が身につく取組みを行う。 ※生徒の「学校教育自己診断」における『自主的な学習時間が 2 時間以上の生徒』（平成 24 年度 10％）を平成 27 年度には 30％にする。 イ 学校行事を通して自主・自立性を育てる。 ※生徒の「総合学科アンケート」における『自主性を伸ばすことが出来た』（平成 24 年度 86％）を平成 27 年度には 90％にする。 (4) 基礎学力の定着 ア 「学力生活実態調査」のリトライ指導を徹底し、「堺東スタンダードテスト」を実施する。 ※センター試験受験者（平成 25 年度 72 名）を平成 28 年度には 100 名超にする。 イ 平成 29 年度から実施できるように、必修修科目や選択科目の整理を行う。
2 安全で安心な学校づくり (1) 人権教育の推進（生徒一人ひとりがそれぞれの個性を尊重しあう集団づくりを行い、人権を尊重する学校づくりを行う） ア 自立支援コースの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりを推進する。 イ いじめの早期発見・対応、体罰防止など、生徒一人ひとりの人権を尊重する学校づくりを推進する。 (2) 教員の人権意識の高揚 ア 校内人権研修を一層充実する。 ※教員の「学校教育自己診断」における『人権尊重に努めている』（平成 24 年度 80％）を平成 27 年度には 90％にする。 (3) 生徒の規範意識の醸成 ア インターネット等による人権侵害の防止や交通マナーの遵守する指導を徹底する。 ※生徒の「学校教育自己診断」における『自己管理ができ自己責任で行動できている』（平成 24 年度 63％）を平成 27 年度には 75％にする。
3 夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成 (1) キャリア教育の充実 ア「産業社会と人間」「志学」「ホームルーム」の三つを通じてキャリア教育を充実する。 ※生徒の「学校教育自己診断」における『進路を考える上で、適切なアドバイスがあった』（2，3 年生）、『将来の進路や生き方について考える機会を与えてくれた』（1 年生）を平成 28 年度には 95％にする。 (2) 部活動の充実と学校行事への積極的な参加 ア 部活動を一層活性化し、生徒の入部率を上げる。 ※全学年トータルの入部率（平成 24 年度 75％）を平成 27 年度には 85％にする。 イ 学校行事への満足度を高める。 ※「体育祭」「文化祭」の満足度（平成 25 年度は 80％）を平成 27 年度は 90％にする。 (3) 生徒の対外活動の活性化と地域連携 ア 本校総合学科の特徴である「堺学」を通じて地域と交流を図る。 イ 部活動や授業において、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。
4 開かれた学校づくりの推進と情報の発信 (1) ホームページの充実 ※ ホームページの年間アクセス数（平成 25 年度は 62,000 件）を平成 27 年度は 80,000 件にする (2) 学校説明会の充実 ※ 「秋のオープンスクール」参加者数（平成 25 年度は 250 名）を平成 27 年度は 300 名超にする

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 2 8 年 1 月実施分〕	学校協議会からの意見
※3 年次生と 1 年次生については 1 月 21 日に、2 年次生は 1 月 28 日にアンケートを実施しました。教員と保護者については 1 月 22 日までにアンケート実施し回収しました。（ここに示す%数値は肯定率を表す） 【学習指導】 ・授業について生徒は 81%が難しいと評価し、「授業の教え方を工夫している教員が多い」という評価は 87%であった。今後もより多くの教員の授業改善への取組みが必要である。 ・保護者アンケートの「子どもは授業が分かりやすいといっている」の評価は昨年度より 10.7 ポイントアップの 75%であった。これについては、教え方を工夫した指導方法に対する成果が表れてきた証拠かも知れない。 ・本校のキャリア教育については保護者が 90%、教員が 74%、生徒が 84% 適切であると高い評価を得ている。総合学科としての全体の取組みや生徒への働きかけをさらに強化したい。 ・選択科目について、保護者の 86%、教員の 76%が、生徒の興味関心に応えていると評価している。さらに進路に繋がる魅力的な選択科目の実施をめざしていきたい。 【生徒指導】 ・学校生活に対する意識については生徒の 75%が「行くのが楽しい」と自己評価している。また保護者の 87%が「子供は学校が楽しいといっている」と肯定的である。今後、より安全で安心な学校づくりの取組みを強化していきたい。 ・保護者は本校の生徒指導に 88%が肯定的であった。生徒の「自分は生徒指導上のルールを守っている」の問いでは、92%と非常に高い自己評価を得ている。実際、真面目な生徒が多く、この状態を次年度も持続していきたい。また、「人権教育・道徳学習の機会と内容」については生徒の 83%、保護者の 87%、教員の 96%が肯定的に捉えており昨年度より数ポイントアップしている。いじめ、体罰等の人権侵害のない学校を今後も継続していきたい。 【学校運営】 ・3 年生は 90%が総合学科を選んでよかったと評価し、83%が「自分で考える力・自主性を伸ばせた」、80%が「コミュニケーション能力が身についた」と評価している。昨年度より数ポイントアップしている。今後、総合学科の特色を活かし社会に貢献する生徒の育成に励みたい。 ・文化祭や体育祭等の学校行事について保護者は 92%が活発であると評価し、例年のごとく生徒は 94%が満足している。今後も生徒の自主性を尊重した学校行事の充実を図っていきたい ・教育相談については、生徒の「担任の先生以外に相談できる先生がいる」は 39%と、毎年低い数値になっている。これは担任が親身になって相談にのっていることの証だと考えられるが、相談（教育、キャリア、健康）体制については今後、改善・検討が必要である。 ・教員の「PTA 活動への参加している」が 32%と最低数値であった。次年度は教職員への参加啓発の強化や校内でできる P T A 活動の企画や行事の内容を検討すれば参加できる教員も増えると思われる。 ・教員の「仕事の引継ぎがスムーズに行われて継続性がある」については 48%と昨年より低い数値を示した。これに対しては、年度替わりの各分掌、各学年、各委員会からの PDCA の徹底を図る。次年度の課題に向けての対応の仕方や、課題解決方法などを引継ぎ、一人ひとりが組織人として共有理解を深めていく必要がある。特に主任や長が変わる場合は必ずペーパーやデータファイルで引き継ぎ円滑に運営が行われるようにすることが必要である。 ・教員の「職員会議等が意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」については 46%と昨年度より 20 ポイント下がった。職員会議については、あらかじめ企画委員会が協議内容の論点の整理を十分に行い意見交換も行われた結果なのでそう思うれると思う。また昨年度の 6 月の「学校組織運営に関する指針」の改訂が影響しているように思われる。今後、職員会議で活発な意見交換ができる環境づくりを行う必要性があると考え	○平成 27 年度 第 1 回学校協議会を平成 27 年 7 月 23 日に開催した。議事内容は「今年度の学校経営計画と取組み」、「各分掌・学年・委員会より現状報告と今年度の取組み」についてであった。更にベネッセの安部氏による講演「教育改革の背景と入試改革の注意点について」を行った。その中で協議委員から「京都大学の特色入試（学びの設計書）の合格ポイントはどんな点と分析しているか」という質問が出され、「成功体験を多く綴るより、失敗経験を如何に活かし工夫、努力して克服したかを綴ることが重要である。」という助言をいただいた。また、大学入試に係る「新テスト」に向けて総合的な学習の時間の内容見直し、英語四技能指導の充実や進路指導の中身の見直しが今後の課題であるとの指摘をいただいた。 ○平成 27 年度 第 2 回学校協議会を平成 27 年 12 月 8 日に開催した。議事内容は「各学年・各分掌からの現状報告と今年度の取組みの中間報告」であった。各学年等から報告を行ったあと、進路指導部から提出された「進路状況の中間報告と今後の課題について」というテーマで研究協議を行った。協議委員（保育園長）より「文化祭に毎年園児を招待していただいているが、生徒さんの園児に対する気配りや、優しくフォローをしてくれることに大変感謝している。勉強のみならず高校生としての成長を大いに期待している」とご意見をいただき、協議委員（同窓会会長）から「堺東の良き伝統でもある『講習』や『休日の活用』など先生方による学習や部活動への熱心な指導を今後も継承してほしい」との提言をいただいた。 ○平成 28 年度 第 3 回学校協議会を平成 28 年 2 月 26 日に開催した。議事内容は「今年度の学校経営計画と取組み」、「各分掌・学年・委員会の今年度の取組み」の最終報告と「学校教育自己診断アンケート」の結果報告についてであった。更に協議委員による「堺東生徒の学力生活実態調査の分析と傾向」についての講演をしていただいた。その中で、本校生徒については、「今年度の学年すべて今まで以上の学力の伸びを示している。この結果は生徒自身の大きな自信につながるものである。学習した時間のデータを（今後の）生徒に見せると学力が伸びる。また校内順位ではなく全国順位を示すことで生徒に焦りを起こさすというような『仕掛け』づくりが大切である」と提言をいただいた。また家庭学習の充実の取組みとして「スマートフォンから専用アプリを使っでの学習や模試デジタルサービスの活用」についての説明をいただいた。他の協議委員からは「予告なしの防災避難訓練」について、事前に経路や火元の告知なしの訓練は大変実践的であると評価いただき、更に発煙筒を焚くなどすれば一層、臨場感があふれ、生徒の意識も高まると助言をいただいた。また、生徒指導関係では協議委員（中学校長）から答案返却時に生じる不正行為の予防策と指導方法について助言をいただいた。協議委員（保育園長）からは「教師や保護者といった大人が『あれも、これも…』と、やたら多く取り入れてやらせている。もっと自分で考えさせる場面作りが必要で、楽しい学びを探っていくのが総合学科の強みではないだろうか。子どもの持っている時間を大事にしながら、時にはその整理も大事である。と違う角度からのご意見もいただいた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	(1) 授業の充実 (2) 自らの意見をまとめ、発表して、相手に自分の意思を伝える力の向上 (3) 自ら学ぶ意欲・姿勢の定着 (4) 基礎学力の定着	(1) ア 教員相互の授業公開、管理職の授業観察、研究協議等を通じて授業力を向上させる ・授業公開週間を設け教員相互が授業見学を行う ・管理職が授業改善に係る指導助言を行う ・教員自ら授業アンケート結果を検証し、授業改善を積極的に行う イ 高大連携やインターンシップを充実させる (2) 授業や集会において、自分の考えを発表したり他者の意見を聞いたりする機会を増やす ・授業の中でプレゼンテーションの機会を増やす ・集会等で自らの考えを発表する機会を増やす ・校外の研究発表等に積極的に参加する (3) ア 補習・講習を充実させる ・学年や教科が中心となり、補習・講習を行う イ 校外でのセミナーや模擬試験など、様々な学習行事に自ら参加する姿勢を育てる ・「進学合宿」「勉強合宿」を充実させる ・自習室の活用を促進する (4) ア 講習等で「学力生活実態調査」のやり直し(リトライ)を徹底し、国・数・英の基礎学力を定着させる イ 共通履修科目を含む選択科目の整理を行い、「新カリキュラム」を検討する	・教員の授業見学や研究協議への参加率 95% ・生徒の授業アンケートでの(問 8)「授業内容に興味・関心を持った」、(問 9)「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の満足度 90% ・医療系大学へのインターンシップ参加者 15 名 ・総合学科アンケートでの「自己表現や他者理解などのコミュニケーション能力が身についた」90% ・総合学科アンケートでの「自分で考える力や自主性を伸ばすことができた」90% ・「進学合宿」への参加者 60 名、「勉強合宿」への参加者 50 名 ・生徒向け「学校教育自己診断」の『学習にがんばってきた』60% ・第 2 回「学力生活実態調査」の 3 教科全て平均 G T Z が「B2」 ・センター受験者 90 名 ・F A 委員会で「新カリキュラム」の素案を作成	(1) ア・1/22 日に校内研究授業を行い、その後活発な研究協議会を実施した。教員参加率は 80.0%であった。今年度は「I C T活用授業」や「アクティブラーニング」を用いた授業について各教員から活発な意見が出た。次年度も研修を通して授業内容や授業方法の研究や改善に取り組みたい(△) ・前後期アンケートでは「興味・関心」81.7%、「知識技能」85.1%の満足度であった(△) イ・医療系大学の高大連携講座に(2 年生のみ募集したので)11 名が参加した。今後も高大の連携を深めていきたい(△) (2) ・「日本史研究」「国際理解」「時事問題」「倫理」「保健」等でプレゼンを実施。また英語スピーチ大会を「英会話基礎」で実施した(○) アンケート結果ではコミュニケーション能力が身についたという回答が 80%あった。また自主性を伸ばせたという回答は 83%で昨年度よりは数ポイント U P した。次年度も各教科で生徒の自己表現能力を高める授業を更に増やしていきたい(△) ・「看護基礎」を受講する 2 年生 2 名、3 年生 2 名が「総合学科高等学校研究発表会」で看護実習についてのプレゼンを行った。また地学部生徒が 5 月に千葉県 の幕張メッセで開かれた「日本地球惑星科学連合学会」で 9 年間観察を続けてきた「酸性雨」について研究発表した(◎) (3) ア・昨年 3/18 より 2 泊 3 日で 1, 2 年生の「勉強合宿」を新たに実施し 37 名が参加した。また、8/2 より 3 年次生の「進学合宿」を実施したが、宿舎の確保できる部屋数の都合(30 名程度の募集となった)で宿泊人数が制限された為に 19 名の参加に止まった。次年度は参加者の倍増をめざしたい(△) ・アンケートで「学習にがんばってきた」という生徒は 1 年 51%、2 年 76%、3 年 87%で、年度が増すほど頑張っているという結果がでた。家庭学習においては 2 時間以上が 1 年 22%、2 年が 29%、3 年が 4 月頃で 50%、夏休みで 72%、1 月頃で 60%という結果が出ており昨年度より数値は各学年上昇している。(○) ・一昨年度、設備の充実を図った自習室は、ほぼ毎日多数の生徒の活用がある。次年度もその活用者数を更に伸ばしたい(○) (4) ア・昨年度より「学力生活実態調査」の活用方法を改善し、教員団の徹底した再指導(リトライ)を行なっている。例年低下する 2 年生の平均 G T Z が今年度は B 2 を維持し、高い状態を保つことができた(◎) ・センター試験説明会では 140 名を超える参加者があったが担任との面談後、最終的には 84 名が出願した(△) イ・「数学」を必修修とする新カリキュラムを作成して教科に図ったが、合意を得ることができなかった。今後も検討を続けるという教科の意向を尊重して次年度の変更は見送ることとし、継続して検討することとした(△)
	(1) 人権教育の推進 (2) 教員の人権意識の高揚 (3) 生徒の規範意識の醸成	(1) ア 「自立支援コース」生徒と一般生徒の授業交流の機会を増やす イ 堺支援学校との交流会を一層充実させる (2) ア 教員の人権研修を充実させる イ 支援教育サポート校として他校を支援する ウ 教育相談体制を充実させる (3) 安全で安心な学習環境をつくる ・ネット上のいじめ等が発生しないように情報モラルを育成する ・集会や HR で交通ルール遵守の姿勢を育てる ・校内での挨拶運動を奨励する	・「自立支援コース」生徒と一般選抜生徒の授業交流の機会の増加 ・夏の支援学校との交流会への参加者 60 名 ・教員向け「学校教育自己診断」の人権教育関連の項目での校内研修・参画度等の肯定率 85% ・生徒向け「学校教育自己診断」の『生活指導上のルールを守っている』90% ・携帯電話やネット上のトラブルを無くす	(1) ア・昨年に引き続き芸術、社会、福祉、保健、HR の授業で交流を行った。今年度もマルチメディアの授業で一般選抜生徒と共に作品を仕上げた(○) イ・夏の堺支援学校との交流会では生徒 46 名が参加した。今後も生徒会が中心となり、生徒の自主性を尊重した人権教育を推進したい(△) (2) ア・校内人権研修を 2 回実施した。8/24 (LGBT 関係) 参加率 83.3%、12/24(高校におけるユニバーサルデザイン) 参加率 71.6%。両研修ともに講演後に活発な研究協議がなされた(○) ・教員向けアンケートでの校内研修・参画度等の肯定率は 78.6%と中評価を得、目標を達成しなかった。次年度も教員の関心の高いテーマを選び、人研意識の高揚を図る予定である。(△) イ・支援教育サポート校として他校からの相談件数が 13 校 24 件。その他高校だけでなく小中学校や市町村への研修講師依頼が 15 件、関係会議への参加が 17 回あり、積極的に支援を行うことができた(◎) ウ・月に平均 1 回来校するスクールカウンセラーによる相談が 15 件、臨床心理士の教諭による相談もあり、教育相談体制は充実している(○) (3) ・年間 3 回に渡り一定期間中全教員で、また毎日教員 4 名の当番制で通学マナー、服装、頭髮の指導を徹底した(○) ・生徒向けアンケートで『生活指導上のルールを守っている』と答えた生徒は全体の 92%であった。今後も生徒の規範意識の向上に努めたい(◎) ・携帯電話やネット上のトラブルに関する案件は生徒指導が徹底しており発生していない(○)

安全で安心な学校づくり

府立堺東高等学校

夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成	(1) キャリア教育の充実 (2) 部活動の充実と学校行事への積極的な参加 (3) 生徒の対外活動の活性化と地域連携	(1) ア 「キャリア教育」を充実させる - 生徒の進路実現に向けて「産業社会と人間」「志学」「LHR」の有機的な連携を図る 「志学」において大学や専門学校への説明会等への積極的な参加を図る - イ 保育所、病院、老人介護施設へのインターンシップの充実を図り、それぞれの職業への理解を深める (2) ア 体罰のない部活動指導を行い、充実した部活動運営を行う - 部活動の入部率を上げる - 地域の中学校との部活動交流を積極的に行う - イ 「体育祭」「文化祭」「クラスマッチ」等、生徒が自主運営する学校行事を行う - 生徒会活動や各種学級委員会活動を活性化する (3) ア 地元の小中学校との交流を充実させる - イ 堺市の観光協会や博物館が主催する行事に参加する「堺学」受講生徒を増やす - ウ 地域のイベントに参加したり、ボランティア活動に参加する生徒を増やす	「キャリア教育」に係るアンケートの満足度 90% 「大学訪問レポート」提出率 100% - 保育所、病院、老人ホームへのインターンシップ参加者数のべ 50 名 「近畿大会」以上へ出場する部活動の増加 - 部活動入部率 80% - 中学校との部活交流を行う部活動を 2 クラブ以上にする 「体育祭」「文化祭」に係るアンケートの満足度 85% - 生徒の各種委員会を毎月 1 回以上行い、活動内容をHP等に掲載する - 小中学生との授業交流を前後期ともに 1 回以上行い交流を定着させる 「堺学」の授業発表や堺市が主催する各種イベントへの参加を年間3回以上行い「学びの質」を高める - 地域のボランティア活動への参加者数のべ 80 名	(1) ア・「キャリア教育」に係る満足度は1年 77%、2年 87%、3年 87%と高い数値を示している (△) 3年生の前期には、生徒の進路実現に向けて「就職と人権」というテーマで企業について学ぶなど、各学年において「産社」「志学」「HR」が連携して「キャリア教育」に取り組んだ (○) 2年生と1年生が 7/21 に大学や専門学校への見学会を実施した。レポート提出率は2年生 92%、1年生 99%であった (△) また1年生が「探求入門」として、大学のオープンキャンパスに参加するという夏休みの「探求課題」は 99%の生徒が参加し、全員がレポートを提出した (○) - イ・保育所 6 名、病院 37 名 (集中講座 11 名、一日看護師体験に 12 名、ふれあい病院体験 14 名)・老人ホーム 11 名、 計 54 名の生徒がインターンシップに参加した (◎) (2) ア・「安全で安心な学校生活アンケート」を 7 月と 11 月に実施し、今年度も「いじめ・体罰」が無いことを確認をした (◎) - 部活動の加入率は 76%であった。次年度も 80%の入部率をめざす (△) - 女子バスケットボール部が 12 月に近隣中学校の女子バスケ部を対象に本校主催の「ドルフィンカップ」を開催して積極的な交流を行った。またサッカー部も同じく本校主催の「堺東カップ」を開催し交流を行った (○) - 今年度は柔道部の女子が団体で近畿大会出場を果たし、男子ハンドボール部が府下 3 位になった。また、野球部が全国高校野球選手権大会大阪府予選でベスト 8 になった (○) - イ・「体育祭」「文化祭」の満足度は全体で 95%、92%と今年も高い。今後も生徒の自主性を尊重した学校行事の充実を図っていきたい (◎) - 保健や図書各委員会が活発な活動を行い、月 1 回、「図書新聞『パピルス』」や「保健だより」を発行した (○) (3) ア・冬の堺支援学校との全体交流会は高等部 3 年生を招いて、全校生徒が参加した。その後、1 年生がクラス交流会を行った。また、はるみ小学校とは「福祉基礎」「社会福祉援助技術」の授業で車椅子体験、視覚障がい者体験等を行い交流した (◎) - イ・「堺学」受講生が堺市博物館で「研究発表」を行った。その他にも「堺大魚夜市」「堺市の観光ガイド」「堺市シティープロモーション」に参加するなど活発な活動を行った。今後も活動を続け「堺学」を更に発展させたい (○) - ウ・堺大魚夜市、敬老会、堺観光ボランティア、緑のつどい、クリーンキャンペーン、障がい者バスケ指導等に合計 124 名がボランティア参加し、堺市や地域から好評を得た (◎)
開かれた学校づくりの推進と情報の発信	(1) ホームページの充実を図る (2) 学校説明会の充実	(1) ホームページを頻繁に更新し、学校情報を積極的に発信して在校生やその保護者、中学生やその保護者に必要な情報を提供する (2) ア 在校生が中心となった、オープンスクールを実施する イ 中学校や塾からの要請による「学校説明会」等に積極的に参加する	- ホームページへの年間アクセス数を 80,000 件以上 2 回のオープンスクール参加生徒・保護者を合計 1,000 名 - 中学校等からの「学校説明会」の依頼 20 件	(1) ・1 年間で 82,000 件余りのアクセスがあり 1 日当たり約 225 件。地域向け、校内向けともに活用度が高い。HP は今後も常に更新していきたい (◎) (2) ア・2 回のオープンスクールを合わせると、中学生 830 名、保護者等 241 名、計 1071 名が参加したことになり、昨年度より 36 名増加した。中学生からは「分かりやすかった」「大体分かった」が 95.6%、「進路の参考になった」が 95.9%というアンケート回答を得た (◎) イ・学校説明会の依頼は中学 6 校、市町等から 4 件、塾等から 5 件あり、合計 15 件全て参加した。次年度も積極的に情報発信していきたい (△)